

(仮称)

米沢市総合計画

(案)

2026 - 2035

(令和8年度) (令和17年度)

第1部 序 論

第2部 基本構想

米沢市

目次

第1部 序論.....	1
第1章 計画策定の趣旨	2
第2章 計画の役割	2
第3章 計画の構成と期間	3
第4章 米沢市の姿	4
第5章 まちづくりを取り巻く社会情勢.....	6
第2部 基本構想	9
第1章 将来像.....	10
1 将来像.....	10
2 重要目標達成指標	11
3 都市づくりの方向性	14
第2章 基本目標.....	16

第 1 部 序論

第1章 計画策定の趣旨

あなたが考える米沢の良いところはなんですか？
知恵を出し、力を合わせ、オール米沢で本市の魅力を活かしながら、
「みんなが幸せなまち」を創り上げましょう。

米沢市（以下「本市」といいます。）は、鎌倉時代にまちが形成され、特に伊達氏と上杉氏が本拠としたことにより、城下町として栄えました。現在でも、こうした歴史や文化を背景に、山形県の南の玄関口として置賜3市5町の中心都市となっているほか、3つの大学を有する学園都市のまち、東北地方有数のものづくりのまち、米沢牛をはじめとした食文化や温泉等の豊富な地域資源・自然環境に恵まれたまちなどとして発展を続けています。

しかし、昨今、急速に進行する人口減少や労働力不足をはじめ、物価の高騰、異常気象・自然災害の頻発化等が市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしています。また、行政運営においても、社会構造の変化を踏まえ、総合的かつ計画的なまちづくりを推進することが求められています。

このような時だからこそ、知恵を出し、力を合わせ、オール米沢で本市の魅力を活かしながら、市民一人ひとりが心身ともに健康で幸せを実感できる持続可能なまちを創り上げなければなりません。

市民と行政が目指すべきまちの将来像を共有し、更なる市勢発展に結び付けるため、この米沢市総合計画（以下「本計画」といいます。）を策定します。

第2章 計画の役割

本計画の位置付け

本計画は、本市の最上位計画として、目指すべき将来像の実現に向け、市政を運営する基本的な考え方を示す役割を担うものです。

個別計画との関係

本計画は、まちづくりの特定の分野に関する個別計画（計画・方針等）の指針となるものとし、個別計画は、本計画の内容を具体化・補完するものとします。

また、個別計画は、対象となる分野の目標等を掲げ、その実現に向けた具体的な取組等を明らかにします。

第3章 計画の構成と期間

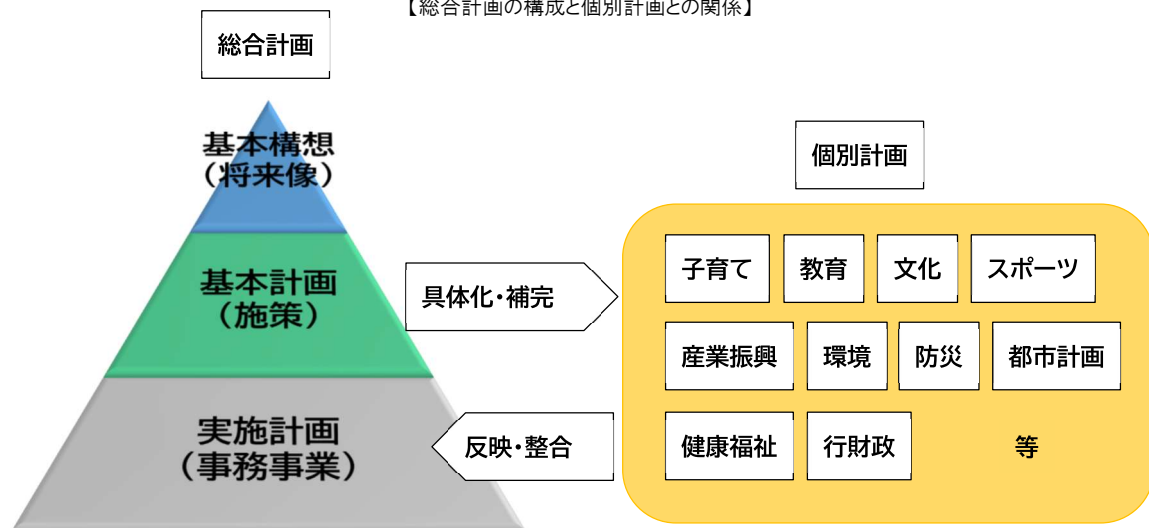
本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。

基本構想	10年間	将来像、基本目標等、まちづくりの基本的な方向性を示す。
基本計画	前期5年間 後期5年間	基本構想の実現に向け、重点プロジェクト、基本目標毎の施策を示す。
実施計画	1期3年間 (第5期は 2年間)	- 基本計画で定めた施策を実現するための具体的な事務事業を個別計画との整合を図りながら示す。 - 各年度の予算編成及び事業執行の指針とするため、財政状況等を勘案し、3年間の計画をローリング方式で別途策定する。

【計画期間】

令和	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
西暦	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
基本構想	10年間									
基本計画	前期5年間					後期5年間				
実施計画	3年間		3年間			3年間			3年間	
									2年間	

【総合計画の構成と個別計画との関係】



第4章 米沢市の姿

人口 (日本人・外国人) ●人 (●●●年) ↓ 77,467人 (令和4年)	世帯数 (日本人・外国人) ●世帯 (●●●年) ↓ 33,645世帯 (令和4年)	外国人 ●人 (●●●年) ↓ 871人 (令和4年)	出生 ●人 (●●●年) ↓ 428人 (令和3年)
死亡 ●人 (●●●年) ↓ 1,102人 (令和3年)	転入 ●人 (●●●年) ↓ 2,530人 (令和4年)	転出 ●人 (●●●年) ↓ 2,562人 (令和4年)	結婚 ●組 (●●●年) ↓ 279組 (令和3年)
離婚 ●組 (●●●年) ↓ 96組 (令和3年)	合計特殊出生率 ● (●●●年) ↓ 1.25 (令和3年)	高齢者割合 (65歳以上) ●% (●●●年) ↓ 31.4% (令和2年)	平均寿命 男性●●歳 女性●●歳 (●●●年) ↓ 男性80.9歳 女性87.2歳 (令和2年)

通学者数 ●人 (●●●年) ↓ 5,362人 (令和2年)	就業者数 ●人 (●●●年) ↓ 45,286人 (令和2年)	市民所得※ ●百万円 (●●●年) ↓ 242,159百万円 (令和2年)	製造品出荷額等 ●百万円 (●●●年) ↓ 563,180百万円 (令和2年)
観光入込客数※ ●人 (●●●年) ↓ 3,166,304人 (令和4年)	農家数 ●戸 (●●●年) ↓ 1,301戸 (令和2年)	ごみ収集量※ 1日に1世帯あたり●kg (●●●年) ↓ 1日に 1世帯あたり1.9kg (令和4年)	水道給水 1日に1人あたり●kg (●●●年) ↓ 1日に 1人あたり357.6ℓ (令和4年)
交通事故 1日に●件 (●●●年) ↓ 1日に0.6件 (令和4年)	救急車出動数 1日に●件 (●●●年) ↓ 1日に9.4件 (令和4年)	犯罪件数(認知)※ 1日に●件 (●●●年) ↓ 1日に0.8件 (令和4年)	学校数 小学校●校 中学校●校 (●●●年) ↓ 小学校14校 中学校7校 (令和5年)

(注) ※は年度集計、人口・世帯数は、10月1日現在の住民基本台帳の数値

1日あたりの数値は、人口・世帯数または年間日数(365日)で割った平均値

第5章 まちづくりを取り巻く社会情勢

まちづくりを進める上で、影響を及ぼすと考えられる全国的な社会情勢について、整理します。

A 人口構造の変化

人口減少・少子高齢化の進行

全国の出生数は、昭和40年代後半に200万人超でしたが、令和5（2023）年は約73万人に減少しています。合計特殊出生率も昭和49（1974）年に人口置換水準となる2.07を割り、令和5年は1.20に低下しています。また、高齢化率は、昭和45（1970）年に高齢化社会となる7%を超え、令和5年は約29%となっており、人口減少・少子高齢化が急速に進行しています。

若者世代の首都圏への集中

新型コロナウイルス感染症の影響で減少した首都圏への転入が再び増加しており、特に10代後半から20代が転入超過数の大部分を占め、若者世代が首都圏に集中する傾向が続いています。

B 社会・経済の変化

経済環境の複雑化

原材料価格やエネルギー価格の高騰に加え、サプライチェーンの寸断リスクの高まり等、経済環境が複雑化しています。

DXの進展

デジタル技術（AI、ロボット、ビッグデータ等）を活用することで人々の生活をより良いものに変革するDX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展が必要です。

多様な働き方

働き方改革や女性活躍の取組を進めるため、テレワークといった新しい働き方をはじめとした多様な働き方を選択できる社会の実現が求められます。

C 環境の変化

脱炭素社会への移行、GXの進展

地球温暖化が進行していることから、脱炭素社会への移行を推進するため、クリーンエネルギー中心の経済社会に変革するGX（グリーン・トランスフォーメーション）の進展が必要です。

自然災害の頻発化・激甚化

毎年のように水害・土砂災害等が発生し、今後も激甚化・頻発化の傾向が続くことが見込まれるとともに、大規模地震の発生も懸念されることから、災害対策の重要性が高まっています。

D
くらしの変化**人生100年時代の到来**

健康寿命が世界一の長寿社会を迎え、人生100年時代が到来しているため、高齢者から若者まですべての人に活躍の場があり、元気に活躍し続けられる社会の実現が求められます。

孤独・孤立問題の顕在化・深刻化

単身世帯や高齢者世帯の増加に伴い、自治会加入率が減少するなど、世代間の交流や人と人のつながりが低下し、孤独・孤立問題が顕在化・深刻化しているため、対策の強化が求められます。

多様性の尊重、共生社会の形成

性別、年齢、人種、障がいの有無等の多様性を意味するダイバーシティと、社会において多様な人材を尊重しながら活動できる環境を整えるインクルージョンを通じた共生社会の形成が求められます。

E
行政経営の変化**地方財政の悪化**

人口減少とそれに伴う地域経済の縮小により、税収入の減少と高齢化による社会保障費の増大等が見込まれ、地方財政の悪化や行政サービスの低下が懸念されます。

SDGs（持続可能な開発目標）を見据えた取組

誰一人取り残さない社会の実現を目指し、国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向け、主体的な取組が求められます。

F
その他（地球規模でみる変化）**世界情勢の不安定化と世界経済の不透明化**

ロシアによるウクライナ侵攻、米国と中国の対立、中東地域の紛争、朝鮮半島の緊張等、世界情勢の不安定化と世界経済の不透明化が増しています。

人口増加に伴う食料やエネルギーの需給バランスの変化

世界人口は今世紀末頃に110億人に達する可能性があり、人口増加に伴う課題として、食料やエネルギーの需給バランスの変化が挙げられます。

将来の予測が困難なVUCAの時代

将来の予測が困難な「VUCAの時代」と言われ、自治体においても、新しい時代の変化をとらえ、環境変化に応じて柔軟に対応できる人材育成や政策形成が求められます。

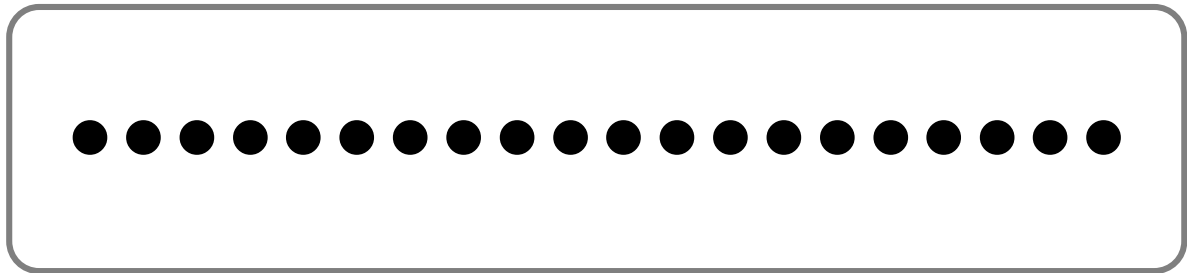
(白紙ページ)

第2部 基本構想

第1章 将来像

1 将来像

令和8(2026)年度から10年間のまちづくりの基本的な方向性について、市民、学生、市内事業者をはじめ、本市に関係・ゆかりのある多くの人と共有するため、目指すべきまちの将来像を定めます。



(将来像の説明を簡潔に掲載)*****
*****。

*****。

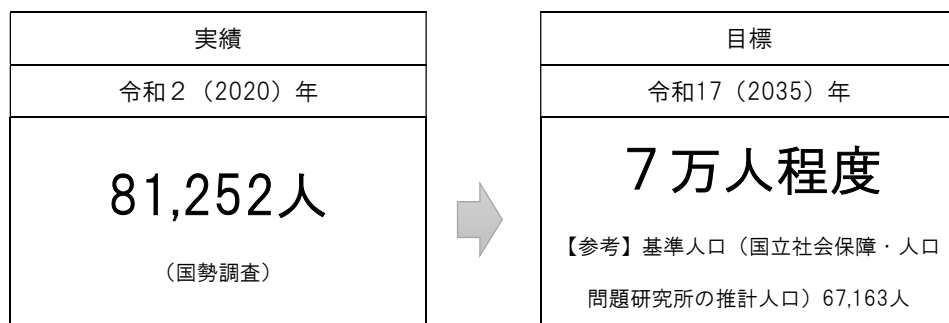
2 重要目標達成指標

本計画の最も重要な成果として、目指すべきまちの将来像を実現することにより、人口減少のスピードを緩やかにし、持続可能なまちを創ること、そして、人口が減少しても市民一人ひとりが幸福を実感できるまちを創ることが求められます。

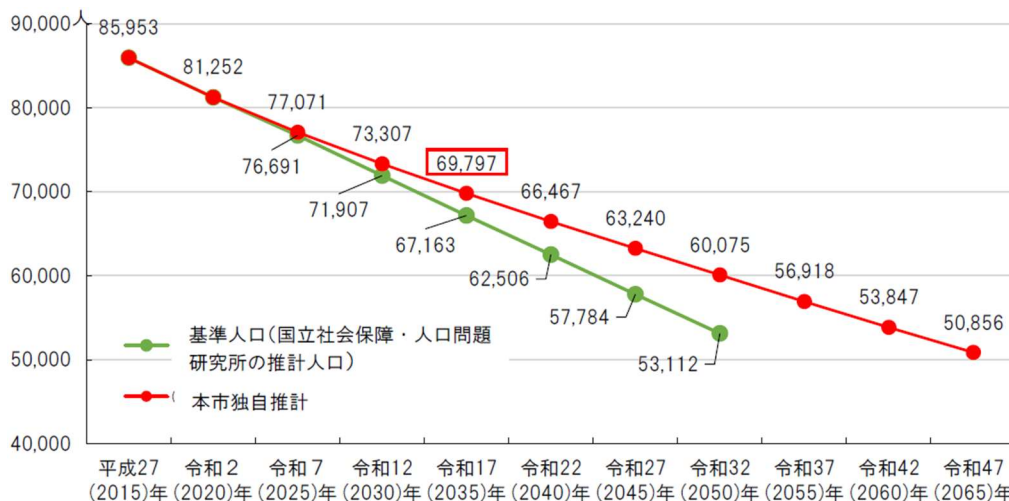
このことから、「将来人口」と「地域幸福度」を最上位の重要目標達成指標（KGI:Key Goal Indicator）に設定します。

重要目標達成指標（KGI）①将来人口

令和6（2024）年度に改定した米沢市人口ビジョンを踏まえ、人口減少が急速に進行する中、施策を着実に実行することで、国立社会保障・人口問題研究所（令和5年12月推計）の推計人口を基準人口として、令和17（2035）年は7万人程度とすることを目標とします。人口減少を抑制し、将来的には自然動態及び社会動態の均衡を目指していく必要があります。



【人口推計シミュレーション】



[本市独自推計の仮定条件]

・出生に関する仮定

合計特殊出生率が段階的に引き上げられ、目標値(1.8)まで引き上げられると仮定

2030年:1.5 2035年:1.55 2040年:1.6 2045年:1.65 2050年:1.7 2055年:1.75 2060年:1.8

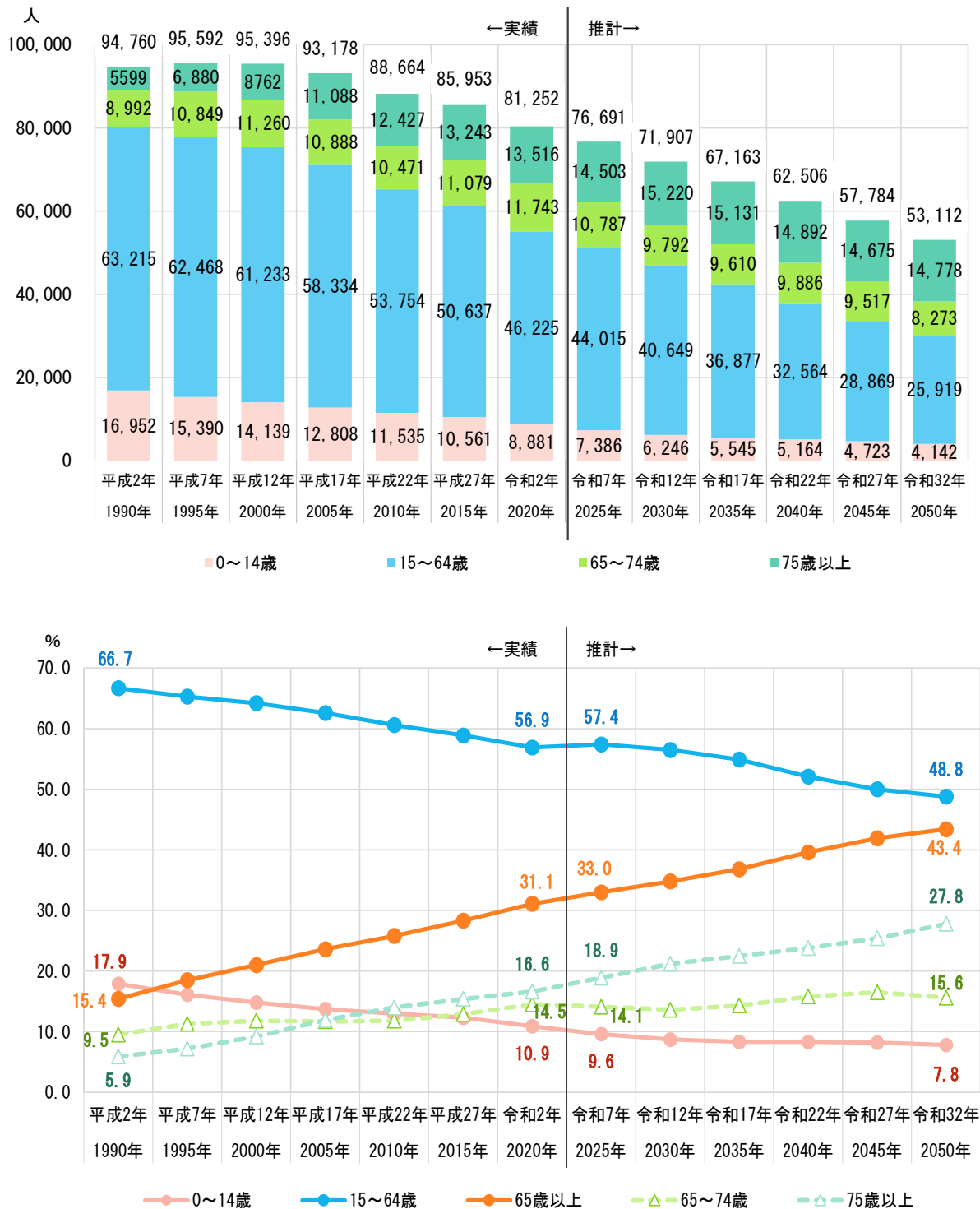
・移動に関する仮定

社会移動が2040年までに5歳階級別社会移動が段階的に引き上げられ均衡すると仮定

資料: 米沢市人口ビジョン

第2部 基本構想

【基準人口における年齢別人口及び構成割合の推移】



(注) 実績(国勢調査)の総人口は年齢不詳(非表示)を含む

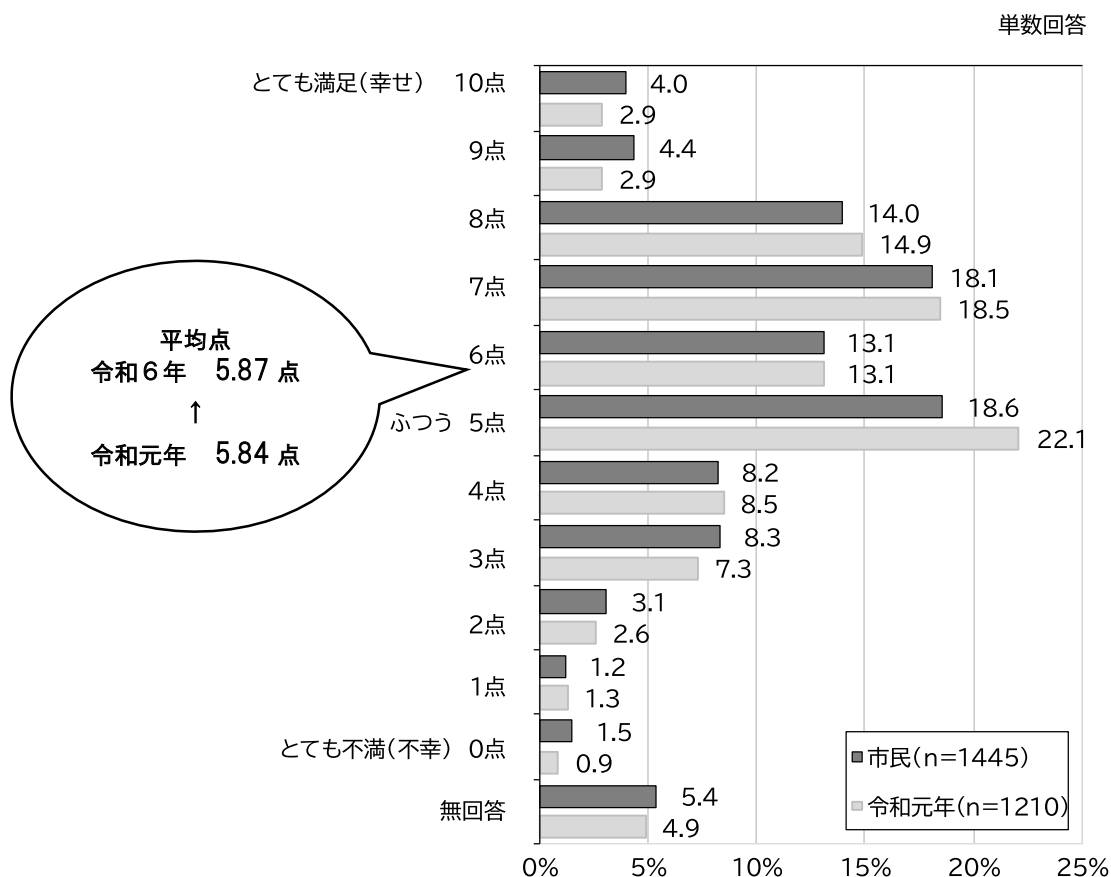
重要目標達成指標（KGI）②地域幸福度

市民一人ひとりの幸福感を高めるためには、誰もが暮らしやすいまちづくりを進め、地域の豊かさや心豊かな暮らしにつながるウェルビーイングなまちを形成し、地域全体の幸福度を向上させることが重要です。

令和6（2024）年に実施した市民アンケート調査（18歳以上）による「暮らしの満足度（幸福度）」の平均5.87点を基準値として、令和17（2035）年は6.00点とすることを目標とします。

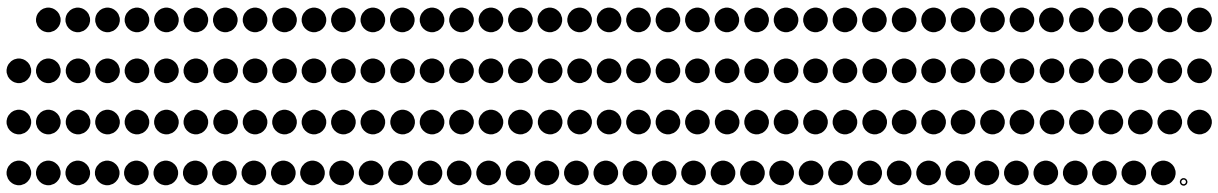
目標
令和17（2035）年
6.00点

【市民アンケート調査の「暮らしの満足度（幸福度）」】



（注）平均点は、0点～10点×各人数の合計点を点数回答者（0点～10点の総人数）で除した値

3 都市づくりの方向性



市街地と周辺地域の
構造やそれらを結ぶネ
ットワークの形成等、
都市づくりの方向性
について、文面とイメ
ージ図を基本計画の内
容も踏まえ、作成予定

(白紙ページ)

第2章 基本目標

目指すべきまちの将来像の実現に向け、5つの分野毎に基本目標を掲げ、関連する施策を設定します。

A large rectangular frame containing a smaller, dark gray rectangular box in the center. The text 'イメージ図' is written in white inside the gray box.

イメージ図

基本目標1 子育て・教育

～米沢に誇りを持つ子どもを育み、生涯にわたる「ひとづくり」を実現する

県内最高水準の子育て・教育環境を目指し、子育て世帯を包括的に支えるとともに、教育の質の向上を図り、本市に誇りを持つ子どもを地域全体で育みます。また、高校・大学との連携強化、文化芸術やスポーツ等を親しむことができる環境整備を推進し、生涯にわたり学び育てる「ひとづくり」を実現します。

基本目標2 産業・経済

～働く環境の整備と高付加価値化により、市民所得の向上を実現する

本市の多様な産業をさらに成長させるため、若者が定住できる働く環境を整備するとともに、時代の変化を見据え、産学官金の連携により高付加価値化を図ります。加えて、DX、リスクリソング等による生産性向上や人材育成に取り組むことで、地域内の経済循環を高め、市民所得の向上を実現します。

基本目標3 環境・防災・社会基盤

～自然や歴史・文化と都市機能が調和した、安全安心なまちを実現する

自然や歴史・文化と都市機能が調和したまちを目指し、脱炭素社会の形成、歴史・文化を活かした環境の整備、交流が促進する公共交通の構築等に取り組めます。また、コンパクトで災害に強い都市基盤を整備するとともに、ともに助け合う雪・防災対策を推進することにより安全安心で機能的な都市を実現します。

基本目標4 健康・医療・福祉

～安心できる地域医療と、誰もが健康で活躍できる共生社会を実現する

人生100年時代に市民が健康で明るく元気に活躍し続けるため、安心できる地域医療の体制を構築するとともに、健康長寿のまちづくりを進めます。また、高齢者や障がい者等が自分らしく生活できる環境を整備し、すべての人に居場所と出番のある地域共生社会を実現します。

基本目標5 協働・魅力発信・行財政

～地域づくりと魅力発信を進め、市内外から選ばれるまちを実現する

地域で住み続けることができるよう、人と人をつなぎ誰もが活躍できる地域づくりを進めるとともに、魅力発信を推進します。加えて、行政DXや持続可能な行政経営により、質の高い行政サービスを市民に提供し、市内外から選ばれるまちを実現します。

【別紙 1】

新総合計画の将来像案について

1 将来像の変遷

前々回計画（平成 8（1996）～平成 17（2005）年度）

「自然、ひと、歴史、みらい、輝く米沢」

前回計画（平成 18（2006）～平成 27（2015）年度）

「豊かさやすらぎ 共に創りあげる ときめきの米沢」

現行計画（平成 28（2016）～令和 7（2025）年度）

「ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢」

2 新総合計画（2026（令和 8）～2035（令和 17）年度）の将来像案

事務局案

しあわせ循環 学園都市・よねざわ

（説明）

「しあわせ」を実感できるまち。それは、こどもたちが健やかに育ち、若い人材が集まり、経済が潤い、生活基盤が整い、さらに人々が集うという地域の豊かさにつながる「循環」の連鎖が生まれるまちです。

「学園都市」としての強みを活かし、あらゆる主体が参画し、あらゆる分野で小さな連携を積み重ね、相乗的かつ波及的な効果を生み出すことで、この良好な「循環」を実現します。

市内に「ひと、モノ、お金」が集まり、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）なまちをオール米沢で創り上げることを表現しています。

その他の案

育てるなら 働くなら 暮らすなら
幸循環 学園都市・よねざわ

しあわせ循環 学園都市・米沢
～認め合い、支え合い、高め合うまちへ～

幸せ紡ぐ学園都市・米沢
～子育て・仕事・暮らしの好循環を目指して～

育てるなら 働くなら 暮らすなら
『しあわせ』つなぐ学園都市

なさねばならぬ それが米沢
誇りとしあわせを紡ぐ学園共創都市

ねっちょねば（never）！ Dynamic YONEZAWA

ピンチに挑戦し、チャンス創造しつづける学園都市

美味しさ・雪・♨️（温泉マーク）・歴史のある教育都市 しあわせ YONEZAWA

【別紙2】

新総合計画 全体構成

項目	備考
表紙	
市長メッセージ	
私のまち～Instagramハッシュタグキャンペーン～	新規
目次	
第1部 序論	
第1章 計画策定の趣旨	
第2章 計画の役割	
第3章 計画の構成と期間	
第4章 米沢市の姿	
第5章 まちづくりを取り巻く社会情勢	
第2部 基本構想	
第1章 将来像	
1 将来像	
2 重要目標達成指標	新規
3 都市づくりの方向性	
第2章 基本目標	
第3部 前期基本計画	
1 基本計画の目的	
2 基本計画の推進	
3 基本計画の構成	
4 米沢市におけるSDGsの取組	
5 施策の体系	
6 前期重点プロジェクト	
7 分野別施策	
基本目標1 子育て・教育～米沢に誇りを持つ子どもを育み、生涯にわたる「ひとづくり」を実現する	
施策1-1 出産・子育て	現計画3-2
施策1-2 学校教育	現計画2-1
施策1-3 学園都市	現計画2-5
施策1-4 生涯学習・文化・スポーツ	現計画2-2,3,4
基本目標2 産業・経済～働く環境の整備と高付加価値化により、市民所得の向上を実現する	
施策2-1 商工	現計画1-1
施策2-2 観光	現計画1-2
施策2-3 農林	現計画1-3
施策2-4 産業人材・雇用	現計画1-4
基本目標3 環境・防災・社会基盤～自然や歴史・文化と都市機能が調和した、安全安心なまちを実現する	
施策3-1 脱炭素・環境衛生	現計画4-5
施策3-2 生活安全	現計画5-2
施策3-3 防災・消防	現計画5-1
施策3-4 雪対策	現計画5-3
施策3-5 土地利用・住環境	現計画4-1,2
施策3-6 道路・公共交通・上下水道	現計画4-3,4
基本目標4 健康・医療・福祉～安心できる地域医療と、誰もが健康で活躍できる共生社会を実現する	
施策4-1 健康・保健	現計画3-1
施策4-2 地域医療	現計画3-6
施策4-3 地域福祉・障がい福祉	現計画3-4,5,7
施策4-4 高齢福祉	現計画3-3
基本目標5 協働・魅力発信・行財政～地域づくりと魅力発信を進め、市内外から選ばれるまちを実現する	
施策5-1 地域コミュニティ	現計画6-3
施策5-2 多文化共生・男女共同参画	現計画6-2,4
施策5-3 魅力発信・移住定住	現計画6-2,3
施策5-4 DX・行政経営	現計画6-1,5,6
資料編	
資料1 米沢市総合計画策定条例	
資料2 米沢市総合計画審議会	
資料3 よねざわまちづくりフォーラム	
資料4 アンケート結果	
資料5 用語解説	

【参考】

現行計画 全体構成

項目	備考
表紙	
市長あいさつ	
総合計画審議会長あいさつ	削除
目次	
第1部 序論	
第1章 計画の目的と役割	
第2章 米沢市の姿	
第3章 米沢市を取り巻く社会動向と課題	
第2部 基本構想	
第1章 将来像	
第2章 基本理念・基本目標	理念は削除
第3章 将来人口の見通しと市街地形成の基本的方向	
第4章 施策大綱	削除
第3部 後期基本計画	
1 基本計画の目的	
2 計画期間	
3 基本計画の構成	
4 施策の体系	
5 後期重点事業	
6 米沢市におけるSDGsの取組について	
基本目標1 挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり	
施策1-1 活力ある商工業の振興	新計画2-1
施策1-2 自然と文化、歴史を活かす観光の振興	新計画2-2
施策1-3 消費者や時代のニーズに合った農林業の振興	新計画2-3
施策1-4 安定した雇用と働きやすい環境づくりの推進	新計画2-4
基本目標2 郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり	
施策2-1 これからの時代を生き抜く力を持つ子どもの育成推進	新計画1-2
施策2-2 生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくりの推進	新計画1-4
施策2-3 多様な文化芸術と歴史・文化が息づき、豊かな心を育む地域づくりの推進	新計画1-4
施策2-4 スポーツで楽しく元気な人づくりの推進	新計画1-4
施策2-5 大学と連携した学園都市の推進	新計画1-3
基本目標3 子育てと健康長寿を支えるまちづくり	
施策3-1 誰もが元気で健やかに暮らせるまちづくりの推進	新計画4-1
施策3-2 安心して生み育てることができるまちづくりの推進	新計画1-1
施策3-3 生きがいを持って高齢期を過ごせる長寿のまちづくりの推進	新計画4-4
施策3-4 誰もが自立を目指せる環境の整備	新計画4-3
施策3-5 身近な支え合いのあるまちづくりの推進	新計画4-3
施策3-6 適切な医療を受けられる環境の整備	新計画4-2
施策3-7 社会保障制度の安定運営	新計画4-3
基本目標4 自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり	
施策4-1 快適で住みよい住環境づくりの推進	新計画3-5
施策4-2 秩序ある土地利用と景観形成の推進	新計画3-5
施策4-3 利便性の高い道路・交通網の整備	新計画3-6
施策4-4 安全な水の供給と水環境の保全の推進	新計画3-6
施策4-5 環境にやさしいまちづくりの推進	新計画3-1
基本目標5 安全安心に暮らせるまちづくり	
施策5-1 いざというときに備えるまちづくりの推進	新計画3-3
施策5-2 普段から安全を心がけるまちづくりの推進	新計画3-2
施策5-3 冬期も安全安心に暮らせるまちづくりの推進	新計画3-4
基本目標6 持続可能なまちづくり(協働・行政経営)	
施策6-1 ICTを活用したまちづくりの推進	新計画5-4
施策6-2 交流・つながりを通じ、多くのひとを呼び込むまちづくりの推進	新計画5-2,3
施策6-3 とともに協力し合い、行動するまちづくりの推進	新計画5-1,3
施策6-4 男女共同参画の推進	新計画5-2
施策6-5 健全な行政経営の推進	新計画5-4
施策6-6 他自治体との広域連携の強化	新計画5-4
資料編	
資料1 米沢市総合計画策定条例	
資料2 米沢市総合計画審議会	
資料3 よねざわまちづくりフォーラム	
資料4 アンケート結果	
資料5 用語解説	